



No.37

げんきカエル



こども病院ニュースレター

診療部紹介

診療部長 小阪 真之

診療部というのは簡単にいうと、おもに医師の所属する部署です。ただし、整形外科所属の理学療法士、眼科所属の視機能訓練士、耳鼻咽喉科所属の言語訓練士を含みます。

なお医師だけでいうと、平成24年1月1日現在、正規78名に加え、他に46名の医師(フェロー、専攻医、研修医)で合計124名といった大所帯となっています。個々のメンバーについては病院のホームページ(<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>)の診療科案内のスタッフの項をごらんください。

いずれの職種もこどもさんの診療を専門にしており、いわば小児医療のエキスパートとよんでいい人たちの集団であると自負しています。

当院の診療部の特徴としては、多くの他の大病院と異なり、科ごとの連携が非常に密接で、かつ各科間の垣根が低いということがあげられると思います。平たくいうと、他の科に患者さんを紹介したり、種々の協力や相談を求めたりすることを、お互いが気遣いなく、気軽に行えるということです。当院は皆さんご承知のように、重症の患者さんも多く、単独の科で診断を行ったり、方針を立てて治療を進めていく、ということが困難な患者さんも多いことから、このことは適切な診療を行っていくうえで極めて大切なことであり、当院が誇っていいことの一つだと思っています。

各科の活動内容や特化した診療内容については、

前記ホームページを是非ごらんのうえ参考にされてください。

なお写真は他のはずせない仕事がある医師以外は出席する医局会の風景です。医局長(現在は麻酔科の鈴木毅医長)を中心に、ざくばらんに色々な意見を出して、診療の質の向上に努めております。

最後になりますが、患者さん、ご家族におかれましては、医師に直接には話にくい、壁にくいといった思いを持たれている方もおられるかも知りません。そんなことは決してありませんので、どうぞ担当医に直率なくおぼろげのないご質問、ご意見をいただければ幸いです。

どうか今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



感染対策チーム(ICT:Infection Control Team)の活動

感染管理認定看護師 嶋滝 由佳

私たちICTは院内感染対策委員会(ICC:infection control committee)の下部組織としてチームで活動する感染対策の実働部隊です。医師、看護師、検査技師、薬剤師、事務職という多職種で構成されており、週1回(毎週木曜)の会議開催、月1回(第3木曜午後)の院内巡回を行っています。活動内容は、院内の感染症発生状況の把握および発生時の早期制圧のための対策実施、病原微生物の検出状況の把握、感染対策マニュアルの作成および改訂、流行性ウイルスに対するワクチン接種の実施、職員教育の実践、感染対策に関する各種相談への対応など多岐にわたります。患者様、ご家族、スタッフなど院内における全ての

皆様を様々な感染から守るべく日々活動しております。

ICTよりご面会の皆様へのお願い

- 入室時には窓口にある消毒剤で手を消毒しましょう!ブッシュを指先、手のひら、手の甲まで手全体に丁寧にすりこんでください
- 発熱、ひどい咳、下痢症状など体調の悪い方は面会をご遠慮ください
免疫の弱い患者様が入院されています



がん化学療法看護認定看護師となって

血液腫瘍主体病棟 看護師 後藤 恵美

はじめまして、私は昨年6月にがん化学療法看護認定看護師として認定を受けました。がん化学療法看護認定看護師としての役割は、化学療法を受けるこどもたちとその家族を支え、安心して安全に治療が受けられるよう看護していくことです。化学療法は心身ともに厳しい治療となります。医師・看護師の連携はもちろんのこと、薬剤師、栄養士、臨床心理士など多くの医療スタッフと連携を取り、治療に取り組むこどもたちやご家族の心理的、社会的な側面を理解し、個別的、全人的かつ専門性の高い看護を提供し、苦痛が少しでも緩和できるよう支援していくことを心がけています。

入院での治療は長期に渡ります。乳幼児期では病棟保育士と、学童期では院内学級の先生と連携を取り、日々成長・発達しているこどもたちの支援も行っていきます。

現在では、外来で化学療法を受けるこどもたちも増えています。家庭での生活を送りながら、治療を行うこどもたちやご家族の支援を行うことができるよう取り組んでいきたいと考えています。





4ヶ月健診で 股の開きが悪いって言われました。これって？

整形外科部長 小林 大介

小児整形外科疾患には様々なものがありますが、その中で最も頻度の高いのが股関節開閉制限ではないでしょうか？ 今回はこの病態についてご説明したいと思います。

股関節が固いのは？

自治体が主催する4ヶ月健診などで股関節の開きが悪いと専門病院でのチェックを受けるよう指導されます。これは股関節が固い人の中には股関節の脱臼をきたしている人がいるからです。また完全に脱臼にいたらずとも脱けかかり、いわゆる亜脱臼といった病態も存在しこれらのスクリーニングのために受診が必要となります。

診断はどうやってするの？

臨床所見、単純X写真、超音波検査などで病的な固さなのか許容範囲であるのかを判断します。男の子などではもともとちょっと固いといった程度の子も多く認められます。

治療はどうするの？

すでに脱臼、亜脱臼をきたしている場合にはリーメンビュージェルという器具を使用した治療が必要となります。そこまでいたってない場合には膝の向き矯正、抱っこの方の注意、オムツの当て方指導などで様子を見ます。

治りますか？

早期に発見された(6ヶ月未満)先天性股関節脱臼の患者のほとんどはちゃんとした治療を受ければ成績良好です。ただ中には経過が思わしくない場合もあるため、一般病院ではなく専門病院での治療をお勧めしています。

股関節以外の疾患にも幅広く対応しておりますので、お困りの事があればわれわれ整形外科に何でも相談してください。



左股関節の開きが右には比べると悪く太腿のしわが深いのがわかります。



レントゲンで見ると左股関節(矢印)の脱臼が認められます。



リーメンビュージェル脱臼、亜脱臼の治療をこれで行います。

